PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

01-127313

(43)Date of publication of application: 19.05.1989

(51)Int.CI.

B29C 49/64 B29C 49/08 B29C 49/30 B65D 1/00 // B29L 22:00

(21)Application number: 62-285164 (22)Date of filing:

13.11.1987

(71)Applicant:

TOYO SEIKAN KAISHA LTD

(72)Inventor:

TAKAKUSAKI NOBUYUKI

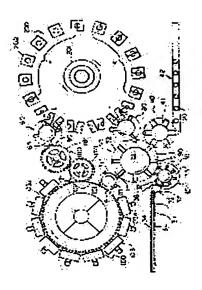
MIZUTANI YOJI KISHIDA MASAHIRO **HOSOKAWA MANABU**

(54) MANUFACTURING DEVICE FOR THERMOFIXING PLASTIC HOLLOW VESSEL

PURPOSE: To manufacture continuously a plastic vessel, by a method wherein

(57)Abstract:

along with performance of stretching blow molding of preform thermofixing of the said vessel is performed by shutting up hot air within a molding vessel and then discharge of the hot air and cooling of the vessel are performed. CONSTITUTION: A mandrel 10 provided with preform preheated at a stretching temperature is held by a mandrel supporting seat 210, in blow molding and heating processes. Then a solenoid valve 247 for stretching is turned ON, a cylinder 248 and stretching bar 217 are raised and preform 1 is stretched in an axial direction. Simultaneously with the above a solenoid valve 239 is changed over, high-temperature and high-pressure air is blown into the preform through a first passage 226 and expansion and stretching in a circumferential direction of the preform are performed. Then a vessel wall, whose molecular stretching has been performed in a biaxial direction, comes into contact with the surface of a cavity of a mold 202 and thermofixing is performed. The low- pressure cooling air is blown against a molded vessel 20 through a second gas passage 227 and opening 228, the molded vessel is cooled and taken out of the mold.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Patent Abstracts of Japan

(11) Publication number:

05-41420

(24) (44) Date of publication of application for opposition:

1993.23.06

(21) Application number:

62-285164

(22) Date of filing:

1987.13.11

(65) Publication of application number:

01-127313

(43) Date of publication of application:

1989.19.05

(54) Title:

MANUFACTURING DEVICE FOR THERMOFIXING

PLASTIC HOLLOW VESSEL

(71) Applicant:

TOYO SEIKAN KAISHA LTD

(72) Inventor:

TAKAKUSAKI NOBUYUKI

MIZUTANI YOJI

KISHIDA MASAHIRO HOSOKAWA MANABU ⑲ 日本国特許庁(JP)

① 特許出願公告

平5-41420 報(B2) ⑫特 許 公

20公公告 平成5年(1993)6月23日

1 Int. Cl. 5 49/64 B 29 C 49/NR 49/30 B 65 D 1/09 // B 29 L 22:00

庁内整理番号 識別記号 2126-4F

2126-4F

1/00 7445-3E B 65 D

C 発明の数 1 (全15頁)

熱固定プラスチック中空容器の製造装置 69発明の名称

> 願 昭62-285164 ②特

開 平1-127313 匈公

②出 颜 昭62(1987)11月13日 @平1(1989)5月19日

信之 草木 個発 明 者 洋 司 明 水 谷 @発 者

神奈川県横浜市栄区庄戸4-21-9 東京都杉並区宮前 4-7-11

允 东 @発 明 者 岸 \mathbf{H}

神奈川県川崎市宮前区平2丁目12番14-501号

311 学 @発 明 者 細

神奈川県川崎市高津区末長1530

勿出 願 東洋製罐株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目3番1号

理 弁理士 鈴木 郁男 少代 Y 均

官 浦 審 査

1

切特許請求の範囲

1 延伸され且つ熱固定されたプラスチック中空 容器の製造装置であつて、

プラスチックから成るプリフオーム及び該プリ フオームからの中空容器を支持するマンドレル; 該マンドレルにプリフォームを載置させる供給 域;

周囲にマンドレルを支持するための複数の支持 座を備えたターレツトと、該ターレツトの外周に 沿つてマンドレル上のプリフオームを加熱するた 10 めの加熱機構とから成る予備加熱域;

複数の開閉可能なブロー成形及び熱固定用の金 型と該金型に対応するマンドレル支持部材とを周 囲に備えた回転部材から成るブロー成形及び熱固 定域;

予備加熱域から予備加熱されたプリフオームを 載置したマンドレルをブロー成形及び熱固定域に 移送させる移送域;

ブロー成形及び熱固定域からブロー成形及び熱 出域及び前記供給域、予備加熱域、移送域、ブロ 一成形及び熱固定域及び取出域をこの順に通るマ ンドレルの無端移送路から成り、

2

前記ブロー成形及び熱固定域には、

回転の全過程を通じて熱固定温度に加熱されて いる金型、

金型が移送域を通り過ぎた後金型を閉じ且つ取 5 出域に達したとき金型を開く金型の開閉機構、

マンドレルに対し同心状に配置されたプリフオ ームに対して往復動可能な中空な延仲棒、

延伸棒の周囲とマンドレルとの間に設けられ且 つプリフォーム内に通ずる第一の気体通路、

延伸棒の内部に設けられ、延伸棒の長さ方向に 分布した閉口を通してプリフォーム内に通ずる第 二の気体通路、

第一の気体通路に開閉弁乃至切換弁を介して通 ずる高圧の熱風供給機構と熱風排出機構、

第二の気体通路に開閉弁を介して通ずる低圧の 15 冷風供給機構、及びプリフォームへの延伸棒の挿 入動に同期して第一の気体通路を高圧の熱風供給 機構と接続して、プリフオームの延伸ブロー成形 を行うと共に熱風を成形容器内に閉じ込めて該容 固定された容器を載置するマンドレルを取出す取 20 器の熱固定を行い、次いで熱固定後第一の気体通 路を熱風排出機構と接続し且つ第二の気体通路を 冷風供給機構と接続して、熱風の排出と容器の冷 却とを行う開閉弁の制御機構

が設けられていることを特徴とする熱固定プラス チック中空容器の製造装置。

3

発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は熱固定プラスチック中空容器の製造装 5 置に関するもので、より詳細には、延伸により二 軸方向に分子配向され且つ熱固定されたプラスチ ツク容器を、ワンモールド内で能率よく製造する ための装置に関する。

(従来の技術及びその問題点)

ポリエチレンテレフタレート (PET) の如き 熱可塑性ポリエステルの二軸延伸ブロー成形容器 は、優れた透明性や表面光沢を有すると共に、び んに必要な耐衝撃性、剛性、ガスパリヤー性をも 有しており、各種液体のびん詰容器として利用さ 15 (発明の目的) れている。

しかしながら、ポリエステル容器は、耐熱性に **劣るという欠点があり、内容物を熱間充塡する用** 途に対しては、熱変形や容積の収縮変形を生じる ため二軸延伸ブロー容器を成形後に熱固定(ヒー 20 ト・セット) すべく多くの提案が既に行われてい る。

熱固定の方法には、共通の1個の金型内で延伸 ブロー成形と熱固定とを行う所謂ワン・モールド 法と、延伸プロー成形と熱固定とを別個の金型内 25 を提供するにある。 で行なう所謂ツー・モールド法とが行われてい る。

前者のワンモールド法には、特公昭59-6216号 公報にみられる通り、ブロー成形型中で延伸プロ ブロー操作後の熱固定と中空成形体の取出のため の冷却とのために比較的長い型内滞留時間を必要 とし、生産速度が未だ低いという問題がある。ま た、このワンモールド法として、中空金型の温度 しに取出し得る範囲内で可及的に高温の温度、例 えば100℃に維持し、ポリエステルプリフオーム に高温高圧エアを吹込むと同時に二軸延伸するこ とが提案されている(特開昭54-95666号公報) なるにしても、高温ガスからの伝熱による熱固定 では、伝熱境膜の存在により、熱固定に未だ比較 的長時間を必要とすると共に、得られる耐熱収縮 性の程度においても未だ十分に満足し得るもので はなかつた。

まだ、ツーモールド法には、特公昭60-56606 号公報にみられる通り、延伸プロー成形により得 られる成形品を成形プロー型から取出した後、熱 固定用の金型内に保持して熱固定を行う方法や、 特開昭57-53326号公報にある通り、一次金型中 で延伸ブロー成形と同時に熱処理を行ない、成形 品を一次金型から取出してこれを冷却することな く、二次処理金型中で再度ブロー成形する方法等 10 が知られている。

4

しかしながら、このツーモールド法では成形用 と熱固定用との2セットの金型が必要であり、装 置コストが高くつき、また工程数が多くなる等改 善すべき点が多い。

従つて、本発明の目的は、前述したワンモール ド法により、比較的短かい金型内占有時間で延伸 され且つ熱固定されたプラスチック容器を連続的 に製造し得る装置を提供するにある。

本発明の他の目的は、単一の金型内で、ブリフ オームの二軸延伸ブロー成形、中空成形体の熱固 定及び金型からの取出しのための冷却が、予定さ れたプログラムに従つてタイムロスなしに有効に 行われる熱固定プラスチック中空容器の製造装置

(問題点を解決するための手段)

本発明によれば、延伸され且つ熱固定されたブ ラスチック中空容器の製造装置であつて、プラス チックから成るブリフオーム及び該ブリフオーム ー成形と同時に熱固定を行う方法があるが、延伸 30 からの中空容器を支持するマンドレル;該マンド レルにプリフオームを載置させる供給域;周囲に マンドレルを支持するための複数の支持座を備え たターレツトと、該ターレツトの外周に沿つてマ ンドレル上のプリフオームを加熱するための加熱 を、最終中空成形体を実質上非冷却下でも変形な 35 機構とから成る予備加熱域;複数の開閉可能なブ ロー成形及び熱固定用の金型と該金型に対応する マンドレル支持部材とを周囲に備えた回転部材か ら成るプロー成形及び熱固定域;予備加熱域から 予備加熱されたプリフオームを載置したマンドレ が、この方法では、型の昇温及び降温は不必要と 40 ルをブロー成形及び熱固定域に移送させる移送 域;ブロー成形及び熱固定域からブロー成形及び 熱固定された容器を載置するマンドレルを取出す 取出域及び前記供給域、予備加熱域、移送域、ブ ロー成形及び熱固定域及び取出域をこの順に通る

マンドレルの無端移送路から成り、前記ブロー成 形及び熱固定域には、回転の全過程を通じて熱固 定温度に加熱されている金型、金型が送域を通り 過ぎた後金型を閉じ且つ取出域に達したとき金型 に配置されたプリフォームに対して往復動可能な 中空な延伸棒、延仲棒の周囲とマンドレルとの間 に設けられ且つプリフオーム内に通ずる第一の気 体通路、延伸棒の内部に設けられ、延伸棒の長さ ずる第二の気体通路、第一の気体通路に閉閉弁乃 至切換弁を介して通ずる高圧の熱風供給機構と熱 風排出機構、第二の気体通路に開閉弁を介して通 ずる低圧の冷風供給機構、及びプリフォームへの の熱風供給機構と接続して、プリフオームの延伸 ブロー成形を行うと共に熱風を成形容器内に閉じ 込めて該容器の熱固定を行い、次いで熱固定後第 一の気体通路を熱風排出機構と接続し且つ第二の と容器の冷却とを行う開閉弁の制御機構が設けら れていることを特徴とする熱固定プラスチツク中 空容器の製造装置が提供される。

(作用)

に、プリフオーム及び延伸プロー成形中及び成形 後の中空容器を支持するマンドレルが、延伸プロ 一成形のための予備加熱域及び延伸ブロー成形域 を通る無端の移動路に沿つて移動し、且つ延伸ブ けられ且つ開閉可能に設けられた金型内で、ブリ フオーム内に挿入される延伸棒と高圧流体吹込み との協働作業でプリフオームの延伸プロー成形が 行われる。しかしながら、本発明では、単一の金 た中空容器の熱固定及び熱固定された中空容器の 型からの取出しのための冷却が、ロスタイムなし に一連の動作として行われる。

この一連の動作を能率良く行うために、本発明 に加熱されている金型を使用し且つプリフオーム をブロー延伸するための流体として高温及び高圧 のガスを使用する。延伸棒によるプリフオームの 軸方向延伸及び高温高圧ガスの吹込みによる周方

向膨脹延伸により器壁が二軸方向に分子配向され た中空容器が形成されるが、この中空容器の成形 に直ちに引き続いて、成形された容器壁は、その 内面が容器内に圧入されている高温高圧ガスと接 を開く金型の開閉機構、マンドレルに対し同心状 5 触し、一方その外面が高温に加熱された金型表面 と接触して、配向容器壁の熱固定が行われる。こ の熱固定の終期に、容器内に加圧されている高温 高圧ガスは解放され、代りに容器内には冷風が吹 込まれて、熱固定された中空容器の取出しのため 方向に分布した開口を通してプリフオーム内に通 10 の冷却が行われる。最後に、金型が開いて、二軸 分子配向され且つ熱固定された中空容器が収縮や

6

変形なしに金型から取出される。 本発明によれば、高温高圧の気体及び低圧の冷 却用気体の供給を次のように制御する。先ず、延 延伸棒の挿入動に同期して第一の気体通路を高圧 15 仲棒の周囲とマンドレルとの間にプリフオーム内 に通じる第一の気体通路を設け、延伸棒の内部に 延伸棒の長さ方向に分布して設けられた関口を通 してプリフオーム内に通じる第二の気体通路を設 ける。第一の気体通路には、開閉弁乃至切換弁を 気体通路を冷風供給機構と接続して、熱風の排出 20 介して高圧の熱風供給機構と熱風排出機構とを設 け、第二の気体通路には開閉弁を介して低圧の冷 風供給機構を設ける。各開閉弁乃至切換弁の制御 は、延伸プロー成形開始に際して、プリフォーム への延伸棒の挿入動に同期して第一の気体通路と 本発明の装置においても、公知の装置と同様 25 高圧の熱風供給機構とが接続され、熱固定終了後 には第一の気体通路と熱風排出機構とが接続され 且つ第二の気体通路と低圧の冷風供給機構とが接 続されるようにする。即ち、先ず高温高圧のガス がプリフォーム内に吹込まれて、プリフォームの ロー成形域では、回転部材に対して放射状に取付 30 延伸ブロー成形が著しく高速度で行われるばかり ではなく、成形された中空容器中へ高温高圧ガス を印加し続けておくことにより、中空容器壁の熱 固定が迅速に且つ能率的に進行する。熱固定の終 期には延伸棒周期とマンドレルとの間の第一の気 型内でプリフォームの延伸ブロー成形、成形され 35 体通路を熱風排出機構と接続することにより、容 器内に閉じ込められていた高温高圧ガスが有効に 排出されると共に、延仲棒の長さ方向に分布して 設けられていた多数の開口を通して容器の内面全 面にわたつて一様に冷風が吹き付けられ、熱固定 では先ず金型の回転の全過程を通じて熱固定温度 40 された中空容器の型外への取出しのための冷却が 短時間の内に容易に行われることになる。

> 本発明によればかくして、ワンモールド法によ り、比較的短かい金型内占有時間で、延伸され且 つ熱固定されたプラスチック容器を連続的に製造

することが可能となる。

(実施例)

本発明の装置の全体的配置を上面図として示す 第1図において、この装置は大まかに言つて、プ 10に載置させるように供給する供給機構(詳細 は後述する) 30、マンドレル上のプリフオーム 1を延伸温度に予備加熱する予備加熱機構 100 予備加熱されたプリフオームを型内で延伸ブロー 成形し且つ熱固定するための成形熱固定機 20 10 マンドレル 10の中心には中空通路 15が設けら 0、及び成形中空容器20をマンドレル10から 取外して排出するための排出機構(詳細は後述す る) 40から成つている。

予備加熱機構100のプリフオーム導入側と成 形熱固定機構200の中空容器排出側との間に 15 端には、パリソン口頭部2の先端と密封係合する は、プリフオーム1をマンドレル10に載置し且 つマンドレル 10から中空容器 20を分離するた めのターレット状のマンドレルへの着脱機構50 が設けられる。また、予備加熱機構100のブリ フォーム排出側と成形熱固定機構200のブリフ 20 オーム導入側との間には、予備加熱されたプリフ オームを成形熱固定機構200の型内に移送する ための移送機構60が設けられる。更に、ターレ ツト状着脱機構50と予備加熱機構100との間 0が、また成形熱固定機構200とターレット状 着脱機構50との間には中空容器支持マンドレル の乗替機構80が設けられている。かくして、マ ンドレル10の無端移送路90は、ターレツト状 0、移送機構60、成形熱固定機構200、及び 乗替機構80の順に形成されていることが了解さ れよう。尚、予備加熱機構100と移送機構60 との間には、プリフオームの温度を均一化するた 0が設けられているが、その作用については後述 する。

プリフォーム1を示す第2-B図において、こ のプリフォーム1は、最終容器の口頸部に対応す 胴部3、閉じた底部4、及び支持用リング5を備 えている。支持用リング5は、口頸部2の直下に 設けられている。

マンドレル10は、第3図において先端にプリ

8

フォーム 1 の口頸部内に嵌挿される挿入用先端部 11を備え、下方に筒状のシャフト部12を備え ている。この筒状シャフト部12は種々の移送機 **機や予備加熱機構或いは成形熱固定機構におい** ラスチツクから成るプリフオーム 1 をマンドレル 5 て、マンドレルを保持するための部分となるもの である。マンドレル10の中央部分には、2つの フランジ部 1 3 a 及び 1 3 b の間に歯車 1 4 が設 けられており、これは予備加熱機構においてマン ドレル10を回転させるのに役立つものである。 れており、これは成形熱固定機構において、延伸 棒が昇降動するための空間及び延伸プロー成形及 び熱固定操作の際の流体通路としての作用を有す るものである。また、挿入用先端部 1 1 の外周下 ための密封用〇ーリング16が設けられており、 筒状シャフト部12の下端には、成形熱固定機構 のブロー成形用昇降部材(後に詳述する)と係合 する係合面17がある。

更び第1図に戻つて、プリフォーム供給機構3 0は、供給シュート31、小ターレツト32及び 大ターレツト33から成つており、シユート31 はブリフォーム1の筒状胴部3の径より大で且つ 支持用リング5の径よりも小さい間隔 d で設けら には、プリフォーム支持マンドレルの乗替機構 7 25 れた対向スライド板 3 4, 3 4 を有し、プリフォ ーム 1 は正立した状態でその支持用リング 5 の部 分で対向スライド板34,34上を滑つて、小タ ーレツト32に供給される。小ターレツト32は 前記間隔 d のプリフォーム受け用凹部 3 5 を有し 着脱機構50、乗者機構70、予備加熱機構10 *30* ており、ガイド36との協働により凹部35にプ リフォーム 1 を支持し、図において時計方向に回 転する。大ターレツト33も小ターレツトと同様 のプリフォーム受け用凹部37を備えており、小 ターレツト32から受取つたプリフオームを支持 めの保温経時のためのターレツト170及び18 35 して、ガイド38に沿つて反時計方向に回転す る。尚、小ターレツト32及び大ターレツト33 の周速度は、マンドレルへの着脱機構50の周速 度と同期したものである。

マンドレルへの着脱機構50は、時計方向に駆 る寸法及び形状を有する筒状、口頭部2、筒状の 40 動回転される回転体51とその周囲に等しい間隔 で設けられた多数(図では8個)のクランブ機構 52とから成つている。この着脱機構50を拡大 して示す第2-A図において、このクランプ機構 5 2 は先端に約四分の一円筒状の切欠 5 3 を備え

た開閉可能な一対のグリッパー54,54と、こ のグリッパーの他端に設けられた開閉用駆動菌車 機構55及び枢軸56と、この枢軸56を回転可 能に支持するブラケット57と、このブラケット 57を回転させ或いは昇降させるためのカムフオ 5 ロワー及び歯車機構58とから成つている。

9

回転体51と同軸に且つこれよりも下方に回転 体51よりも大径のマンドレル支持用回転体59 が設けられており、この回転体59の周囲には、 対応して設けられている。グリッパー54,54 が閉じた状態にあるとき、プリフオーム支持用切 欠53,53の中心軸と、マンドレル支持用凹部 61の中心軸とが同一垂直軸上に位置するように 62が設けられており(第2-C図参照)、マン ドレル10のシャフト部12を吸引し保持し得る ようになつている。

第2-A図には、クランプ機構52が8つの状 態A~Hにある状態が示されている。ステーショ 20 一定間隔をおいて設けられたマンドレル支持座1 ンAは大ターレット33からのプリフオームを把 持する位置であり、、この位置ではマンドレル1 0はマンドレル支持用凹部61に磁石62により 保持されている。グリツパー54,54は閉じる ように歯車機構55により駆動され、切欠部5 25 3. 53により、プリフオーム1の口頭部2を把 持する。クランプ機構52がステーションAから ステーションBに移動するにつれて、ブラケット 57は機構58により時計方向に回転をはじめ、 も回転される。第2-A図のステーションBはプ リフオーム 1 が約90度回転した状態を示してい る。ステーションBからステーションCにクラン ブ機構52が移動する間もブラケット57は回転 即ちプリフォーム1が倒立した状態で回転を停止 する。続いて、カム機構(図示せず)によりブラ ケット57が下降し、プリフオーム1と同一垂直 軸上に位置するマンドレル10に対して、ブリフ 第2-C図に示す通り、マンドレル10の挿入用 先端部 1 1 がプリフオーム 1 の口頸部内に押込ま れて、プリフオーム1のマンドレル10への固定 が行われて、ステーションCに達する。

10

ステーションCは、プリフオーム支持マンドレ ルを乗替機構70 (第1図) に移し替える位置で ある。グリツパー54,54は歯車機構55によ り開放駆動され、プリフォーム 1 を開放する。こ のステーションCにおいては、やはり磁石を備え た乗替機構のマンドレル支持部71がプリフォー ム支持マンドレル10と近接して、この磁石によ る吸引力がマンドレル10に作用する。マンドレ ル10の進行方向側にはマンドレル剝離用ガイド マンドレル支持用凹部61がクランプ機構52に 10 63が設けられており、マンドレル10を着脱機 構50から乗替機構70へ移動させる。着脱機構 50のステーションC以降の動作については後述 する。

図面に示す具体例において、各回転部材間にお なつている。マンドレル支持用凹部61には磁石 15 けるマンドレルの移動は、上述した如く、磁石に よる吸引作用と分離ガイドとの組合せで行われ

> プリフォーム予備加熱機構100は、駆動回転 されるターレット101と、ターレットの外周に 02と、該ターレットの外周に沿つて配置された 赤外線輻射加熱機構103と、マンドレルを自転 させるための駆動機構 104 (第4図) とから成 つている。

この予備加熱機構を拡大して示す第4図におい て、プリフオーム1を支持したマンドレル10は 磁石(図示せず)によりマンドレル支持座102 に吸引されているが、コロ105によつて自転可 能に保持されている。マンドレル自転用の駆動機 これに伴つてクランプされているプリフオーム 1 30 構 1 0 4 はチエンから成つており、最上流の赤外 線輻射加熱機構 103 aから最下流の赤外線輻射 加熱機103 z 迄の範囲でマンドレルの歯車(ス プロケツト) 14と係合している。かくして、タ ーレット101が回転することにより、プリフオ を続け、プリフオーム1が180度回転した状態、 35 ーム支持マンドレル10は公転し、駆動機構10 4が駆動されることにより、プリフオーム支持マ ンドレル10は自転されるようになつている。

赤外線輻射加熱機構103は、円周方向に沿つ て延びており且つ垂直方向に小問隔をおいて多数 オーム1を倒立した状態で押込む。これにより、40 配置され赤外線輻射ユニット106を備えてお り、この赤外線輻射ユニット106の列が、ブリ フォーム 1の筒状胴部及び底部と対応するような 位置関係で機枠107に取付けられている。赤外 線幅射ユニット 106はプリフォーム 1の列の外

周側に位置しているが、プリフォーム 1 の列の内 周側には、支持部材108,109を介して赤外 線遮蔽板110が設けられ、またプリフオーム底 部の上方にも支持部材111を介して赤外線反射 板112が設けられていて、プリフオーム1の延 5 仲温度への予備加熱が効率良く行われるようにな つている。

11

プリフォーム支持マンドレル10は乗替機構7 0から予備加熱機構100のマンドレル支持座1 02に移し替られ、ブリフォーム 1 は赤外線輻射 10 その他端部には割金型 202を開閉駆動するため ユニット106に沿つて移動しながら、それ自体 も自転し、所定の温度に予備加熱される。この場 合、赤外線輻射加熱はプリフオーム 1 の外面から 専ら行われるので、プリフオームの外面は比較的 高く、内面は比較的低いという温度勾配が形成さ 15 れる。この温度勾配を解消し、プリフオーム内外 面の温度を均--化するためのターレツト170及 び180が設けられる。

第一の温度均一化ターレット 170は、マンド レット180はマンドレル支持座181を夫々備 えている。予備加熱機構 100で所定温度に加熱 されたプリフオームを備えたマンドレルは、第一 のターレット170の支持座171に移行され、 持座181に移行され、更に所定の保温経時を受 ける。これらの保温経時により、プリフオーム1 の内面は外面からの熱伝導により次第に高温に昇 温すると共に、プリフオーム 1 の外面は次第に冷 る。温度が均一化されたプリフオームを備えたマ ンドレルは、第二ターレツト180のマンドレル 支持座181から移送機構60のマンドレル支持 部65に移送され、更に成形熱固定機構200に 供給される。

成形熱固定機構200は、回転部材201と、 回転部材の周囲に回転部材と共に回転し得るよう に設けられた開閉可能な割金型202と、該金型 に対応する金型開閉部材203 (第5図参照)と ム支持マンドレルの移送域Ⅰ、延伸プロー成形熱 固定域J、冷却域K及び容器支持マンドレルの取 出域しがこの順序に配置されており、延伸ブロー 成形及び熱固定域 J 及び冷却域 K では金型 2 0 2

は閉じているが、それ以外の領域では金型202 は開放している。

12

成形熱固定機構200の詳細を示す第5図にお いて、回転機構201には、型開閉アーム206 が放射状に固着されており、その支持部には垂直 軸205が固定されている。この垂直軸205を 中心にして水平方向に揺動し得るように型開閉ア ーム206が設けられ、この型開閉アーム206 の一端部には割金型202が取付けられており、 の流体圧シリンダー207が設けられている。割 金型202には、マンドレルに支持された最終容 器形状に対応する寸法及び形状のキャピテイ20 8が設けられている。

垂直軸205の下方には、マンドレル支持用ブ ラケツト209が固着されている。プラケツト2 09の先端部上方にはマンドレル支持座210が あり、この支持座210にはマンドレル10のシ ヤフト部12を保持するための磁石211が設け レル支持座171を、また第二の温度均一化ター 20 られている。ブラケツト209の先端部下方には ブロー成形用昇降部材212を昇降動可能に支持 する収容部213が設けられている。ブロー成形 用昇降部材212はマンドレル10の下端面と密 封係合されるべきシール面214を有しており、 一定の保温経時後、第二のターレツト180の支 25 その内部には垂直方向に延びる通路215を有し ている。ブロー成形用昇降部材212は押しスプ リング216により常時下向きに賦勢されてお り、第7図の電磁弁245の作動により上昇され る。ブロー成形用昇降部材212の通路215内 却されて、両者の温度は実質上等しい温度とな 30 に延伸棒217が昇降動可能に設けられている。 この延伸棒217の昇降駆動も第7図の電磁弁2 47の作動により行われる。

> ブロー成形用昇降部材212の通路215と延 伸棒217との間には気体通路となる隙間があ 35 り、この通路は通路218を経て気体源に接続さ れている。また、延伸棒217とブロー成形用昇 降部材212とはシール219により密封されて いる。

垂直軸205の上方には支持具220により底 から成る。割金型の円周移動路には、ブリフォー 40 型221が昇降軸222により昇降動可能に設け られている。昇降軸222の駆動は支持具220 に設けられた底型昇降用流体シリンダー223に より行われる。

割金型202が閉じた状態において、キヤビテ

1.3

イ208の中心、底型221の中心、支持座21 0に支持されたマンドレル10の中心、ブロー成 形用昇降部材212の中心及び延伸棒217は何 れも同一垂直軸上に位置するように整合されてい る。延伸棒217は係合用先端部224を備えて いる。延伸棒217はマンドレル10の通路15 内を通つてプリフオーム 1 内に挿入され、その係 合用先端部224がプリフオーム1の底部内壁と 係合し、ブリフォーム 1 を軸方向に延伸させ得る ようになつている。

延伸棒の断面構造をマンドレルとの関係で示す 第6図において、マンドレル10の通路15内 で、延伸棒217の周囲には、ブリフォーム或い は容器の内部空間225に通じる、第一の気体通 路226が設けられている。この第一の気体通路 15 226は昇降部材の通路215を通つて、通路2 18に接続されている。延伸棒217は中空であ つて第二の気体通路227が設けられ、この第二 の気体通路227は延伸棒の長さ方向に分布して 設けられた閉口228を通して、ブリフオーム或 20 いは容器の内部空間225に通じている。第一の 気体通路226は開閉弁乃至切換弁を介して後述 する高圧の熱風供給機構と熱風乃至冷風排出機構 とに接続され、一方第二の気体通路227は開閉

本発明の装置においては先ず、金型202のキ ヤピテイ208の表面温度は、金型202内に設 けられた電熱機構229により、熱固定温度とな るように、金型の全回転過程を通して加熱されて 30 いる。

ブロー成形熱固定機構200の制御機構を示す 第7図において、Cは逆止弁、Rはロータリジョ イントである。高圧の空気源(例えば最大40kg/ cd) 230は減圧弁231を介して相対的に高圧 35 0とのシール状態を維持する。 のブロー用空気源232と、減圧弁233を介し て相対的に低圧の冷却用空気源234とに分離さ れる。高圧のブロー用空気源232は、電熱機構 235を備えた急速加熱タンク236に接続され る。急速加熱タンク236は、ブロー用電磁弁2 40 向に延伸する。 39を介して第一の気体通路226に接続され る。また、第一の気体通路226は排気用電磁弁 240を介して排気口241に接続されている。 低圧の冷却用空気源234は、容器冷却用用電

磁弁242を介して第二の気体通路227に接続 されている。

14

高圧の空気源とは別に、各流体シリンダー駆動 用の低圧空気源243が設けられ、圧力調節弁2 44及びロータリジョイントR₂を介して各流体 シリンダーに接続される。即ち、マンドレルシー ル用電磁弁245を介してブロー成形用昇降部材 の昇降用シリンダー246に、延伸用電磁弁24 7を介して延伸棒の昇降用シリンダー248に、 10 底型用電磁弁249を介して底型昇降用シリンダ -223に夫々接続されている。

また、金型開閉用シリンダー251は、開閉用 電磁弁255を介してシリンダー駆動用低圧空気 源243に夫々接続されている。

また、底型221からの熱固定容器の型離れを よくするために、底型221は空気吹付用配管2 56が設けられており、この配管256は、型離 し用電磁弁257を介して高圧のブロー用空気源 232に接続されている。

プロー成形及び熱工程は次の動作により行われ る。

(1) 供給

第1図のステーション 【において、金型202 は開いた状態であり、底型221は下降位置、ブ 弁を介して低圧の冷風供給機構に接続されてい 25 ロー成形用昇降機構212も下降位置にある。延 伸温度に予備加熱されたプリフオームを備えたマ ンドレル10はマンドレル支持座210に保持さ れる。

(2) 成形準備

金型開閉用電磁弁255が切替り、金型開閉用 シリンダー251が閉鎖行程に移動し、金型20 2が閉じる。次いでマンドレルシール用電磁弁2 4 5 が切替り、昇降用シリンダー 2 4 6 がブロー 成形用昇降部材212を上昇させ、マンドレル1

(3) プロー成形及び熱固定

第1図のステーション」で延伸用電磁弁247 がオンとなり、シリンダー248が上昇作動し て、延伸棒217が上昇しプリフォーム1を軸方

それと同時に電磁弁239が切替り高温高圧空 気が第一の通路226を経てプリフオーム内に吹 込まれ、プリフォームの周方向への膨脹延伸が行 われる。

金型202は、和熱固定温度に加熱されてお り、二軸方向に分子配向された器壁は金型202 のキャピティ表面と接触し、熱固定が行われる。 また、容器20内には第一の通路226を介して 0の熱固定が速やかに行われる。

(4) 冷却

第1図のステーションKで金型202内で所定 の時間熱固定された延伸ブロー成形容器 20は、 金型から取出しのための冷却が行われる。先ず、 10 ヨンGに移動するにつれてクランプ機構 5 2 が上 ブロー用電磁弁239が切替り、回路を遮断し、 排気用電磁弁240が開き、容器冷却用電磁弁2 42が開となる。これにより、第6図に示す通り やや低圧の冷却用空気が延伸棒217内の第二の 気体通路227及び延伸棒に設けられる開口22 8を通して、分子配向され且つ熱固定された容器 に吹付けられる。容器内の空間225に閉じ込め られていた高温空気及び器壁に吹き付けられた冷 却用空気は、延伸棒周囲の第一の気体通路226 及び排気口241を通つて速やかに外部に排出さ 20 体43はその周囲に多数のクランプ機構52Aを れる。

(5) 取出し

器壁の変形が防止される程度に冷却された容器 は第1図ステーションしで最後に型から取出され ンドレルシール用電磁弁が切替えられ、ブロー成 形用昇降部材212はスプリング216 (第5図 参照)により下降位置に戻る。直後に金型開閉用 電磁弁255と延伸用電磁弁247が切替り、シ ンダー248が作動して延伸棒217が下降し、 第5図の位置で停止する。此の場合4の容器内部 からの冷却は少なくとも金型が開く寸前迄続行す るのが望ましい。次いで排気用の電磁弁240が 閉じる。

底型用電磁弁249が切替られ、シリンダー2 23が上昇作動して、底型221を上昇させる。 同時に、型離し用電磁弁257が切替り、高圧空 気が容器の底に吹付けられて型離しが円滑に行わ

第1図に示す取出域しにおいて、延伸され且つ 熱固定された容器20を備えたマンドレル10 は、乗替機構80に乗替り、マンドレルへの着脱 機構50に供給される。

16

再び第2-A図に戻つて、ステーションCにお いてグリッパー54、54が開放状態にあるクラ ンプ機構52は、ステーションD及びEを通りす ぎて、容器支持マンドレルを受取るためのステー 高温高圧の空気が印加されたままであり、容器 2 5 ションF に至る。即ち、ステーションF におい て、容器支持マンドレル10はマンドレル支持用 凹部に支持される。グリッパー54,54は閉鎖 駆動され、切欠部53,53により容器20の口 頸部2を把持する。ステーションFからステーシ 昇動し、これにより、容器20がマンドレル10 から分離される。

> 第1図において、容器20の排出機構40は、 容器反転機構41と容器搬送機構42とから成つ 15 ている。容器反転機構41は倒立状態にある容器 を正立させるためのものであり、マンドレルの支 持機構がない点を除けば、第2-A図に示したク ランプ機構と同様のものである。

この容器反転機構を示す第8図において、回転 有しており、このクランプ機構52Aの各部材は 第2-A図の各部材と共通の引照数字にAを付し たもので示されている。容器反転機構41には6 つのステーションM~Rがある。ステーションM る。先ず容器冷却用電磁弁242が閉じ次いでマ 25 は容器クランプ位置で、着脱機構50のステーシ ョンGに対応する。即ち、着脱機構50のステー ションGにおいて、未だグリツパー5 4, 5 4が 閉じている状態において、反転機構41のグリツ パー5 4 A, 5 4 Aが閉じ、容器 2 0 の支持リン リンダー251が作動して金型を開くと共にシリ 30 グ5の下方を把持する。次いで、着脱機構50の グリツパー54,54が開放することにより、容 器20は反転機構41に移し替えられる。

> 反転機構41のステーションMでは容器20は 倒立状態である。次いで反転機構41が反時計方 35 向に回転するにつれて、ブラケット57Aは時計 方向に回転しはじめる。ステーションNでは容器 20はほぼ90度回転した状態であり、ステーショ ンOでは容器20は1180度回転した正立状態であ る。このステーションOでグリツパー54A,5 40 4 A が 開き、容器 2 O を 搬送コンベア 4 2 上に 放 出し、容器20は検査及び梱包等の作業域に送ら れる。クランプ機構52Aは、ステーションP, Q及びRと通過するに従つて更に180度回転し、 ステーションMに達する。

18

本発明の装置で製造される延伸熱固定中空容器 の一例を示す第9図において、この容器20は、 果汁、蔬菜汁、茶等の飲料の熱間充填に適した PETボトルであり、ネジ付口頸部2、サポート リング5、円錐状屑部21、周状の段差部22を 介して肩部に連なるテーパ状の胴上部23、胴上 部に周状の凹部24及び周状の凸部25を介して 連なる胴下部26及び底部27から成つている。 胴下部26には相対的に径が大で周長が短かく、 小で且つ周状の長いパネル状凹部29とが周方向 に交互に多数設けられている。

パネル状凹部29は、内圧の増大により外方に 膨脹すること、及び内圧の減少により内方に収縮 することにより内圧変化を緩和する作用を有する 15 ものであり、また、周状凹部24及び周状凸部2 5 は容器軸方向への若干の変形を許容する作用を 有する。また、底部27の中央には星型の内方へ の凹み部27Aがあり、圧力や熱変形による外方 へのパツクリングを防止する機能を有する。

本発明によれば、容器におけるこれらの各部分 が有効に熱固定され、熱間充填時にこれら各部分 の熱変形が有効に防止されることから、各部分の 機能が熱間充填時やその後の冷却及び経時後にも ものである。

本発明装置は、種々の延伸熱固定プラスチック 容器の製造に用いることができるが熱可塑性ポリ エステルから成る延伸固定プラスチック容器の製 造に有利に適用させ得る。

本発明において、熱可塑性ポリエステルとして は、エチレンテレフタレート単位を主体とする熱 可塑性ポリエステル、例えばPETやグリコール 成分としてヘキサヒドロキシレングリコール等の 基酸成分としてイソフタル酸やヘキサヒドロテレ フタル酸等の他の二塩基酸成分の少量を含有せし めた所謂改質PET等が使用される。これらのポ リエステルは、単独でも或いはナイロン類、ポリ カーボネート或いはポリアリレート等の他の樹脂 40 とが高速延伸性と熱固定の効率の点で望ましい。 とのブレンド物の形でも使用し得る。

用いる熱可塑性ポリエステルの固有粘度が0.67 d/ f以上であり且つジエチレングリコール単位 の含有量が2.0重量%以下の範囲内にあることが 望ましい。

延伸プロー成形に使用する有底プリフォーム は、それ自体公知の任意の手法、例えば射出成形 法、パイプ押出成形法等で製造される。前者の方 法では、溶融ポリエステルを射出し、最終容器に 対応する口頸部を備えた有底プリフオームを非晶 質の状態で製造する。後者の方法はエチレンービ ニルアルコール共重合体等のガスパリヤー性中間 樹脂層を備えた有底プリフオームの製造に有利な 高さ方向に延びている凸部28と、相対的に径が 10 方法であり、押出された非晶質パイプを切断し、 一端部に圧縮成形で口頸部を形成させると共に、 他端部を閉じて有底プリフオームとする。高温下 での蓋との係合、密封状態を良好に維持するため に、容器口頸部となる部分のみを予じめ熱結晶化 させておくことができる。勿論、この熱結晶化は 以後の任の段階で行つて差支えない。

プリフオームの予備加熱温度は、一般に延伸温 度と呼ばれる温度域であり、PETの場合、80乃 至120℃、特に90乃至110℃の温度範囲である。本 20 発明はブリフオームの高速延伸成形及び熱固定に 有利に適用できる装置であり、この場合、ブリフ オーム内面は外面に比して延伸倍率が高くなるこ とから、プリフオーム内面の温度は外面の温度に 比してあまり低くないことが好ましく、両者の温 維持され、容器の見苦しい不整変形が防止される 25 度差は10℃以内、特に 5℃以内であることが好ま しい。

> 本発明において、金型の温度は、二軸延伸容器 の熱固定が有効に行われるような温度である。こ の温度は、容器に要旨される耐熱性の程度にも大 30 きく依存するが、比較的短かい冷却時間で変形な しに容器を取出し得る範囲内で可及的に高温であ ることが望ましく、一般に100乃至180℃、特に 120乃至150℃の範囲内にあることが望ましい。

高温高圧のブロー用空気としては、プリフォー 他のグリコール類の少量を含有せしめ或いは二塩 35 ム温度よりも高温に加熱された空気が使用され、 高速延伸と熱固定効率の上で、100乃至150℃、特 に110乃至140℃の温度の空気を用いるのが有利で ある。また、圧力は10乃至50kg/cd (ゲージ)、 特に25乃至30kg/cd (ゲージ)の範囲内にあるこ

> 冷却用空気としては、室温の空気を10乃至30 kg/cd (ゲージ)、特に15乃至25kg/cd (ゲージ) の圧力で供給する。

延伸倍率は、軸方向延伸倍率を1.2乃至3.0倍、

特に1.5乃至2.5倍、周方向延伸倍率を2乃至5 倍、特に2.5乃至4.5倍とするのがよい。

19

本発明装置を使用する二軸延伸され且つ熱固定 された中空容器を、単一の金型を使用して比較的 短かい型内滯留時間で製造することができる。一 5 短かくてよいという利点が得られる。 例として、型内における延伸プロー成形時間は一 般に0.5乃至3秒間、特に1乃至2秒間、熱固定 時間は3乃至15秒間、特に4乃至8秒間、冷却時 間は3乃至15秒間、特に4乃至8秒間のオーダー である。

本発明において、軸方向の延伸速度を2.5倍/ 秒以上、、特に3.0倍/秒以上の速度で、且つ周方 向の延伸速度を4.5倍/秒以上、特に5.0倍/秒以 上の速度で、パリソンの高速延伸で行なうことが 望ましい。

(発明の効果)

本発明装置によれば、ワンモールト法で二軸延 伸された熱固定された容器を短かい型占有時間で 効率よく製造することができる。

またプリフオームの温度が比較的高くしかもプ リフオーム内部にプリフオームの温度よりも高温 の熱風が圧入されることにより、高速延伸ブロー が可能となると共に、高速延伸ブローにより、ポ リエステル内部摩擦及び結晶化によると思われる 25 自己発熱があり、延伸ブロー成形されつつあるプ リフォームの温度がより髙温となつて、歪の緩和 及び結晶化が促進され、熱固定が効率よく短時間 の内に行われる。

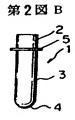
容器を実質上変形なしに取出し得る最高温度は、 熱固定温度が高くなる程高くなる傾向が認められ

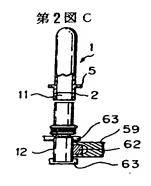
る。本発明では、熱固定が上述した如く比較的高 温で行われ、しかも熱固定操作から冷却操作への。 切替もロスタイムなしに極めて迅速に行われるこ とから、熱固定容器の冷却に要する時間も著しく

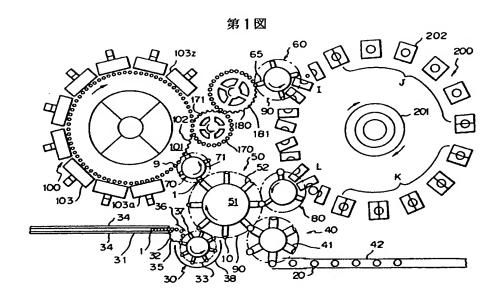
図面の簡単な説明

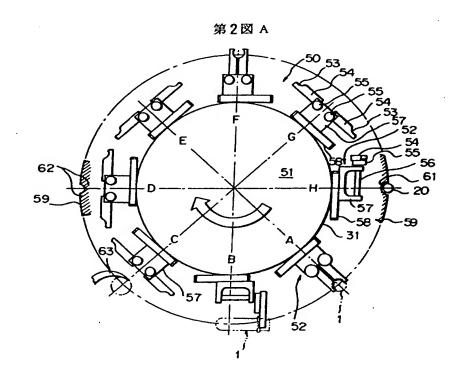
第1図は本発明の装置の全体的配置を示す上面 図であり、第2-A図はマンドレルへの着脱機構 を拡大して示す上面図であり、第2-B図はプリ 10 フォームを示す側面図であり、第2-C図はプリ フオームが挿入されたマンドレルを示す側面図で あり、第3図はマンドレルの拡大側面断面図であ り、第4図は予備加熱機構を拡大して示す側面断 面図であり、第5図は成形熱固定機構を拡大して プリフォームの内部摩擦を有効に利用するために 15 示す側面断面図であり、第6図は延伸棒の断面構 造をマンドレルとの関係で示す拡大断面図であ り、第7図は延伸ブロー成形熱固定機構の制御機 構を示す系統図であり、第8図は容器反転機構を 拡大して示す上面図であり、第9図は本発明装置 20 により製造される容器の一例を示す正面図であ

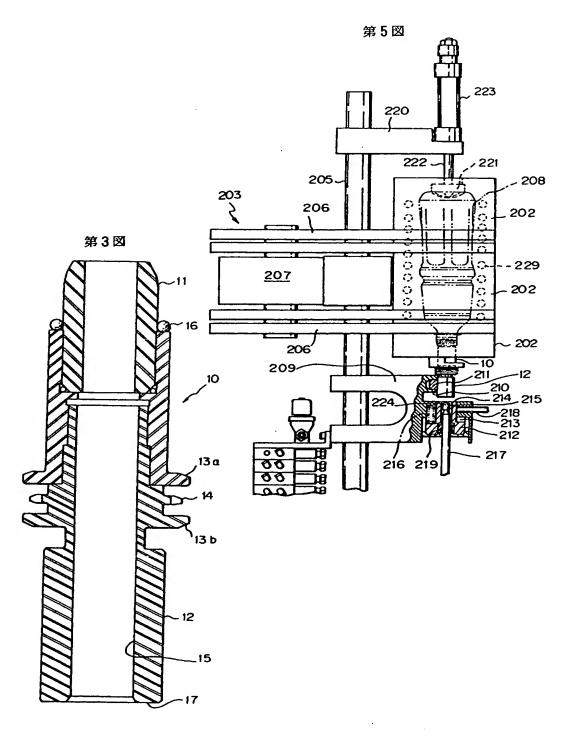
1……ブリフォーム、10……マンドレル、3 0……供給機構、100……予備加熱機構、20 0 ……成形熱固定機構、20 ……成形中空容器、 40……排出機構、50……着脱機構、202… …割金型、217……延伸棒、226……第一の 気体通路、227……第二の気体通路、229… …電熱機構、236……急速加熱タンク、230 ……高圧空気源、232……ブロー用空気源、2 ワンモールド法により熱固定された延伸ブロー 30 34……冷却用空気源、239,242,24 5, 247, 249, 255……弁、223, 2 46, 248, 251 流体シリンダー。

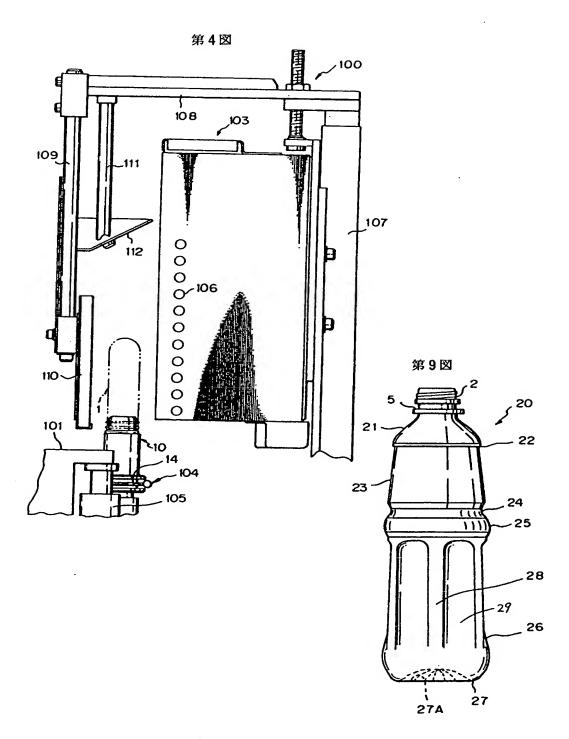


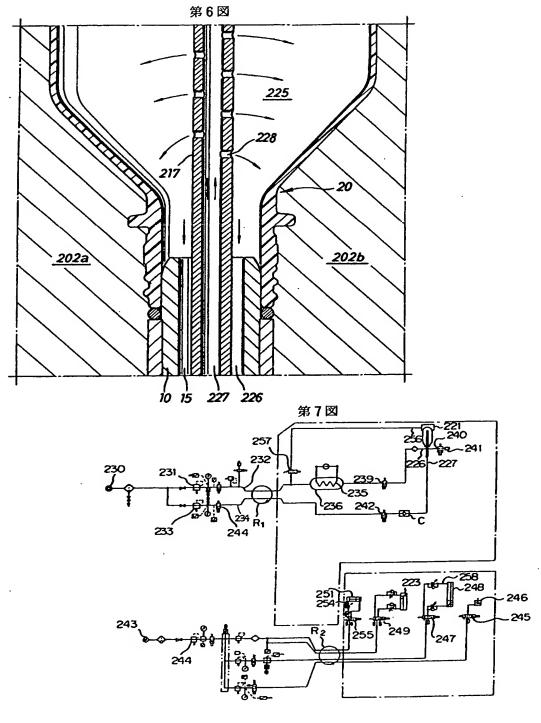












- 146 -

